

抗体医薬の開発に適用

創薬ターゲット探索法と開発候補抗体の創出

かまだ はるひこ
講師： 鎌田 春彦 氏

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所創薬デザイン研究センター
株式会社エピトープサイエンス

2021年 4月 30日(金)

15:00 ~ 16:30

WEB開催 (Zoom)

※事前申込制

セミナー概要

抗体の機能として最も一般的なものは、標的分子に対する結合性であるが、単なる結合性の獲得のみでは医薬品としての価値は結果として低くなる場合が多い。すなわち、機能抗体を作製する上で重視されるのは抗体の結合を分子全体としてとらえるのではなく、標的分子が持つ複数の高次構造を別々の標的として捉え機能を示すエピトープ（機能エピトープ）に結合可能な開発候補抗体を創出することであり、そのことが医薬品として利用できる機能抗体を作製することに繋がるものと考えた。

我々は標的分子に対する複数の抗体作製を通じて、予想されるエピトープを網羅的にカバー可能な抗体群からなる「エピトープ均質化抗体パネル」を作製した。

本セミナーでは、我々が独自に開発してきた創薬ターゲットの探索法に関する研究とともに、疾患の治療に有用な開発候補抗体の創出に関する研究を紹介する。また機能エピトープをターゲットとした抗体医薬設計が、目的とする作用を示す抗体分子の取得に有用であることを示す。

エピトープとは？

抗体が抗原を認識して結合する場合、その抗体が結合する抗原の部分構造をエピトープという。エピトープは標的の一部のアミノ酸や糖などで構成されており、抗原性はエピトープによって異なる。抗原性が高いエピトープに対して生体内で抗体が作製されやすい。

同一の抗原でもエピトープが異なると、抗体のADCC活性の強さが変化したり、抗体にアゴニスト・アンタゴニスト作用などが生じたりするため、エピトープは抗体の機能を決定する領域ともいえる。

日経バイオテク記事 URL : <https://bio.nikkeibp.co.jp/atcl/column/16/021500017/031000192/>

参加ご希望の方は開催前日の正午までに

参加フォーム (<http://urx3.nu/VWcG>) よりお申込みください



連絡先

tbf@triton.or.jp バイオフロンティア推進室 (担当: 森山)
〒683-8503 鳥取県米子市西町 86 番地 TEL 0859-37-5131

